


令和元年度 研究サマリー

| | | |
|-------|-------------------------|---|
| 研究会名称 | 城東地域の腎臓病の病態と治療研究会 | |
| 代表者所属 | 医療法人社団韮生会 メディカルプラザ篠崎駅西口 | |
| 代表者氏名 | 佐中 孜 |  |

研究方法・結果

保存期 CKD 患者の腎機能障害に対する進行阻止効果が期待される CKD 分子栄養療法™

「緒言」

慢性腎臓病 (Chronic Kidney Disease ; CKD) の悪化抑制のための治療の基本が食事療法であることは皆さん、ご存じの通りです。しかもその内容が低蛋白、減塩、高エネルギー食、例えば、蛋白質は体重 1 kg あたり 1 日 0.5~0.8 g、塩は 1 日 3~7 g、エネルギー体重 1 kg あたり 25~35kcal であることもしばしば耳にする。

しかしながら、このような厳しい低蛋白食を継続すること自体が困難の極みといえるし、仮に実行できたとしても、透析開始期間の延長はともかくも、必ずしも腎保護、悪化抑制、透析回避という食事療法の本来の目的にはつながらないのが現状である。

「方法ならびに結果」

そこで、この難問に答えるために、今回は日腎学会ガイドラインに準拠した食事療法にカルニチン、アルギニンなどのアミノ酸補充で始まる下記の表にまとめた CKD 分子栄養療法®の概念を加えた栄養指導を実践することにより eGFR の進行性低下から一転して 1 年以上にわたって eGFR の低下停止を実現させ、そのまま現在に至っている症例を 10 例経験することができた。

そのうちの典型例を紹介する。患者は 63 歳の高血圧性腎硬化症の女性である。eGFR(ml/min)は 2013/7 に 20.3 であったが、10 ヶ月後、13.3 と進行性に低下、近医にて日腎学会ガイドラインに準拠した食事療法が開始されるも 2016/5、2017/10 にそれぞれ 11.8、9.0 と低下するため、当科に来院した。直ちに CKD 分子栄養療法™の概念を加味した食事指導を開始した。1 年半を経過した現在も eGFR は 9.7、CCr 12.7 から 14.8 と数値の改善さえも確認できている。

| CKD分子栄養療法® | 対象CKD関連因子 | |
|--------------|------------------------------------|------------------|
| Reduction 低減 | 尿毒症毒素 (インドキシル硫酸、パラクレシル硫酸など) | Replenishment 補充 |
| | AGEs(ヘントシジン、CMLなど) | |
| | 尿素 (カルバミル化) | |
| | リン(CPP; calciprotein nanoparticle) | |
| 鉄 | 鉄・亜鉛・葉酸・ビタミンB12など | |
| NaCl | | |

研究成果 (論文、学会発表、雑誌掲載等)

- 1) 学会発表 ; 日本腎栄養代謝研究会 (名古屋市 2019 年 7 月 27 日) にて報告
演題名 : CKD の腎機能障害に対する進行阻止効果が期待される CKD 分子栄養療法
- 2) 講演会発表

第 1 回~第 4 回ヘルシーエイジングコーディネーターセミナー(2019 年 4/20. 7/20. 10/19 2020 年 2/15)

市民公開講座

広島臨床栄養研究会 2019 年 11 月 16~17 日

「CKD (糖尿病性腎症・IgA 腎症・多発性嚢胞腎等) 患者治療への最新情報。

透析の開始はいつから・保存期患者から学ぼう・透析後の栄養管理の考え方等」

船橋市在宅医療・介護連携推進事業 2020 年 1 月 25 日「医療・介護の講演会・相談会」